




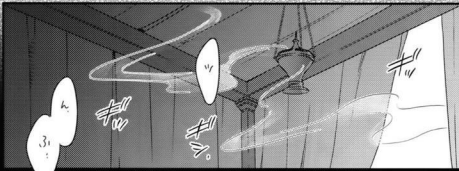
Fate/Grandorder Fanfiction
Arash-Ozymandias

R-18 Adult only

星



アールシユ・カマンガ
からはいつも、
夜の匂いがしていた



それは、夜色の瞳を
夜の帳の中で見ることが
多いせいかも知れない



はま

兄さん



む…
気が逸れていたか

少しな



どうした

また瞳を
見てんのか



ハ…
不遜よな



……っ

今はこっちに
集中してくれると
ありがたいんだがね



俺の眼を気に入って
くれてるのは嬉しいが



それとも、かつての
聖杯戦争の記録が
そう思わせるのか



宙を映した黒い瞳



水はここに
置いとく

他に必要な
モンはあるか？

よい、必要であれば
ニトクリスに用意させる

そうか

104

…勇者よ、
そろそろ

ああ

あ

長居して
悪かったな

気が向いたら
また呼んでくれ

夜は思い出す

余の手を離れ、
遠く旅立っていった
妻と子を

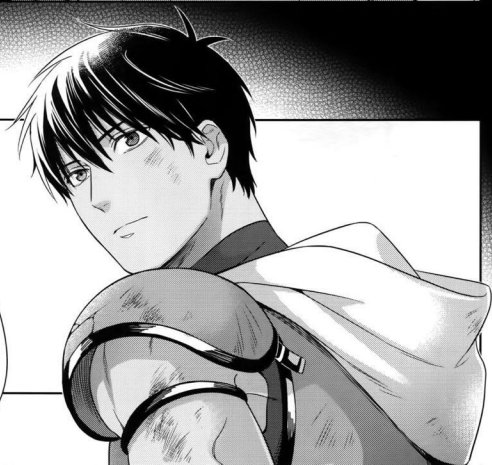
多くの
愛する者たちを

星辰に姿を探して
彷徨い歩いたことを

夜は好かぬ



アーラシュユ!





アーチャー、
少し先に泉があった

そこで
休憩しよう

おっ
そりやいいな



なら
いいけど...
何かあったら
すぐ言ってね!

はは、分かった
分かった



ありがと、さつき
庇ってくれて
怪我
しなかった?

おう、俺は
頑丈だからな



嬢ちゃんも
疲れたろ

もう少しだけ
頼むぜ

は、は、
はい!

お任せ
ください!



早い

夏の頃の、
匂いがする



つしんじゃ
行くかあ



あの腕が、
確かに血の流れる熱さを
持っていることを知っている



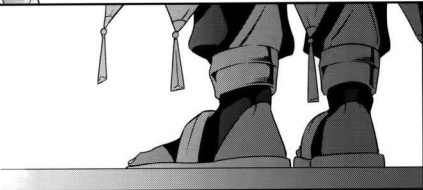
好んで過ごす森と
善たる火の



乾いた土と太陽の、
命あるもの匂いがある



……
兄さん？



だから、
そう感じるの
は
奴の在り方故なのだ

考えるまでもなく
分かってはいるのだ

あー
疲れたあ~~~~!

おうマスター
お疲れ

お帰りなさいまし
マスター♥

ただいま!

おつかれっス

お帰りなさいませ
オシマンディアス様

湯浴みの用意が
できていますが
すぐなさいますか?

うむ…

マスター、
アーチャー

少し
いいかな





——
なあ

いくらなんでも
さっきのはあからさま
すぎじゃないか？

セイバーの奴、
妙な顔してたぞ





勤付かれたかも
知れんぞ

伊達に直感持ち
じゃないからな

ほう？



それで？
勤付かれたら
どうだというのだ

まさか
知られて困るなどと
言うつもりでは
あるまいな



そうじゃ
ねえけど…



ならばよからう

例え気付いたとて
喧伝する男でも
あるまい

それよりほれ、
早く勃たせぬか

昨日もしたつてのに
アンタほんと
好きだよな…

クワ、
人のことを
喋える様か？





もうよからう...

勇者よ

来い



何よりも朽ちることを
恐れているのに

誰よりも死に近い
この男を求めてしまっ



英霊になってまで
囚われる肉を厭うのに

仮初の肉体を使って
この男の熱を確かめている





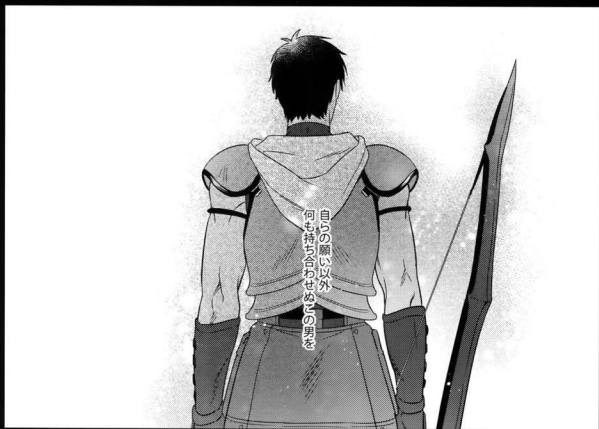
何故 この男なのだろう





何も受け取らず
所有されず

決して余の物には
ならない



自らの願以外
何も持ち合わせぬこの男を

何故これほど



んじゃ
そろそろ帰るな



.....



兄さん?




.....共寝は
しないんじゃ
なかったのか?



——戻らず
ともよい

朝までここに






……そりやあアンタと
こうする時の匂いだからに
決まってるだろ



ハ、
安い口説き
文句よな



そう言って
口説かれてくれるの、
分かってるぞう



いじや
本物の星のように

初めから届かぬものと
分かっていれは
よかったものを



アーラシユ、
お願い



……いいだろう



謝るな
マスター

いつも
言ってるだろ？

先に戻って
厨房のエミヤの
手伝いでもしておくさ

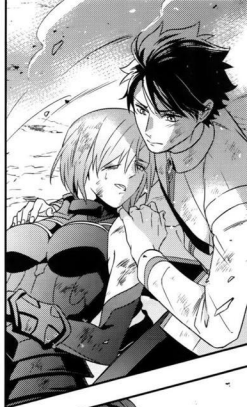
ん……



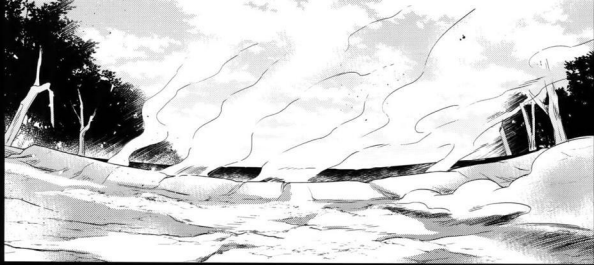
…後は
任せたぜ



……ごめん











おかえり
兄さん
邪魔しませ



珍しいな、
貴様の方から
来るのは

ん？ああ、
なんとなくな

こいつと
遊びたい気分に
なっちゃまって



…そうか



…
兄さん？

どうした、
疲れたのか？

…

……お前は
死をどう思う



己が終える
ことが…
終わりが来ることは
恐ろしくは
なかったのか



……そりゃ怖いさ

自分の体も心も
全部消えて

今も未来も

世界との
繋がりも

何もかも消えて
なくなるんだ

死が怖くない
人間なんざいやしない

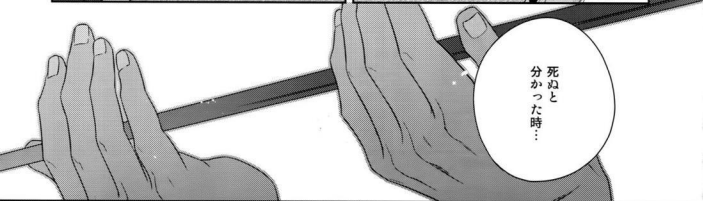
でも、俺は
俺にしかできない

俺がすべきことを
やっただけだ

その結果が
そうだった
だけだ

——
って

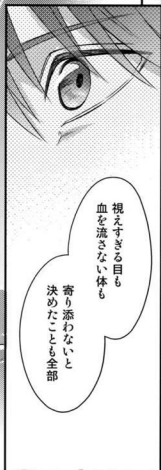
そう言えたら、
良かったんだけどな



死ぬと
分かった時…



俺が
人以上で生まれた意味は
ちやんとあったんだって



視えすぎる目も
血を流さない体も

寄り添わないと
決めたことも全部



己の役目が
ようやく分かった時、
俺は安堵したんだ



だから、



それに、俺の命一つで
皆の願いが叶うなら
安いモンだろ？



……覚悟は要ったが
迷いはなかった





ありがとな、
悼んでくれて



だけとな

それでも俺は
俺の国が好きだった




王と部下と
守るべき民と

敵しいが美しい土地を
愛してた



あれの孤独は
余には癒やせぬ

誰であらうと
不可能だ




あれは
余が愛した者の中で、
一等早く余の手を
離れるだろう

…でも、この手に
あると思うこと自体
誤りなのかも知れん



届かぬからこそ
焦がれるか



だからあれは確かに
俺自身の願いで
あつたんだ



人の王は
皆そう言う


彼方にこそ
栄えあれ、とな



……それは其方も
同じであろう？




……
平和、か




これこそが至高の宝だと、
誰もが欲しながら
これほど曖昧なものも
他にありません

それを掴むことの
困難さも含めてな




秦平を持続させることなど
神々の世ですら不可能

それこそ
聖杯に願ったとて
叶わぬ望みだというのに




それを求めるために
死に続ける、か



手に入らぬものを
欲するのが
人の性だと言うのならば

己の身一つで
それを掴んだあやつは



生きながら既に
人ではなかったのやも
知れんな



ぞっと思う

—— 狡い男だと、



いつものように
笑いながら

「俺はいい」と

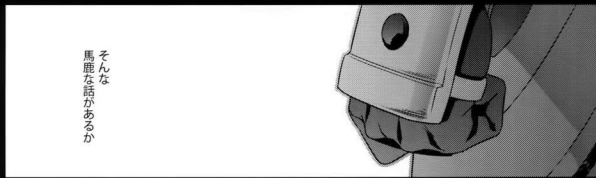


例え視えたところで
優しく拒むだけなのだろう



気紛れに孤独を見せるくせに
心には触れさせない

その寂しさに触れた者の
憂いを知ることもない



そんな
馬鹿な話があるか



肩を並べること
許させておいて

これほどに
求めさせておいて

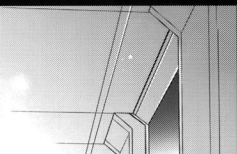
そんな勝手が
許されると思うのか



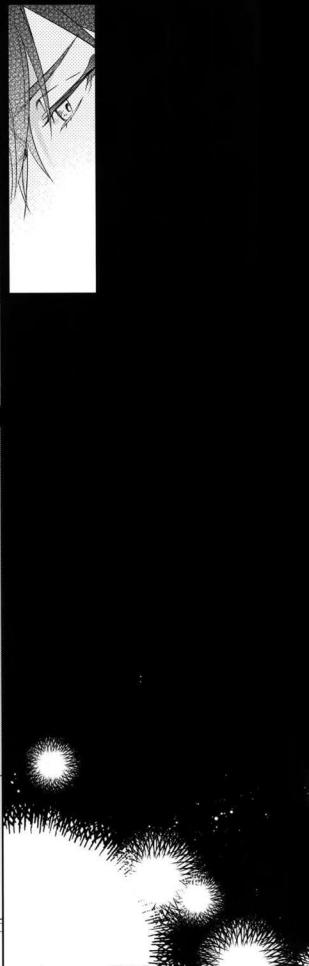
それでも

その在り方を
美しいと思うこともまた

嘘ではないのだ



また夜明けを
見ておったのか







太陽が昇らぬ限り
そこは生者の国にはならぬ



……余の国では、
太陽は夜に冥界へ
沈むとされている



そこで
アアルの王である
オシリスと会い

新たな力を得て
再び生まれ出する
のだと

※アアル=死者の楽園

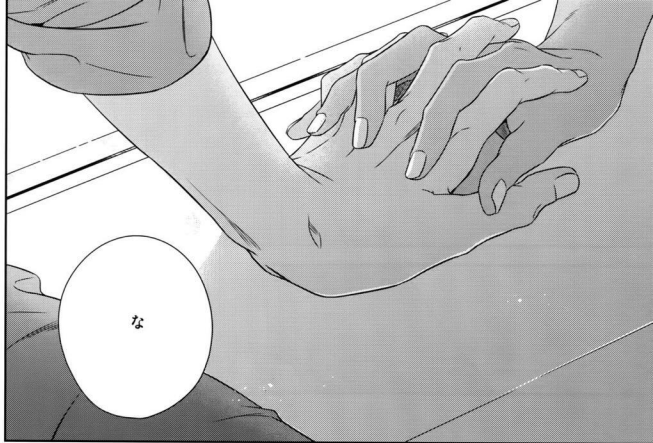


ここは
生と死の間だ

焼却された土台に
ただ一つ残された
この方舟と同じにな







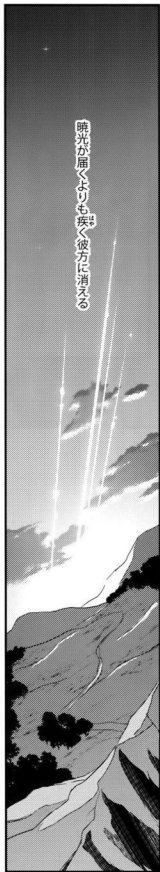
——
本当に、

狡い男だ



決して余には届めぬ、
尊き光よ

曙光が届くよりも疾く彼方に消える



幾度も墜ち

瞬いて人を救う、
一条の星



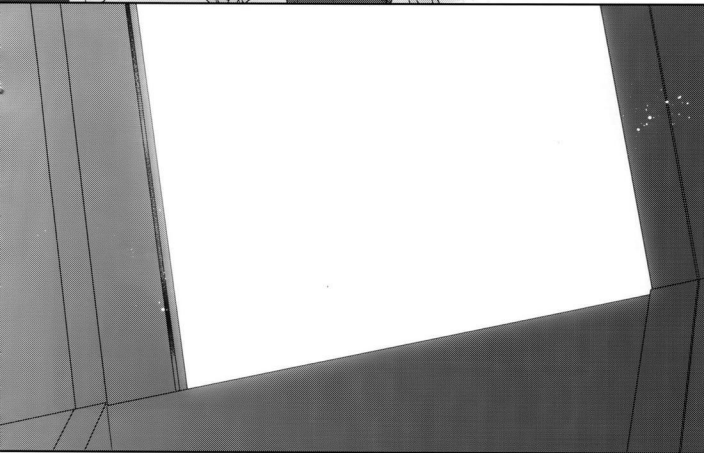
人々が
希望と共に見た
星



戻るか

まだ早いだろ、
もう一眠りしないか

…よかろう



夜明けには遠い
この場所で

今この時しか
叶わぬ願いなら

せめて
その遙かな空に差す
光でありたい

「最期にその目が映したという
友のように」

星の名前

Fate/Grand Order Unofficial Fanbook
Arash x Ozymandias

発行: NIR/十月
発行: 20181007
印刷: 西村隆写堂

pixivID: 756797
twitter: @beer_fes
<http://ashes.under.jp/r/>
ashes@ul.under.jp

■本書は個人の趣味によって作られており、原作者・各関連会社とは一切無関係です
■一般の方・関係者の目にふれないようご協力をお願いします

↑ネットオークション/フリマアプリ/無断転載/複写複製/翻訳/データ化/ネットへのアップロード
以上一切を禁止します



Presented by RIB/10